

【背景と目指す姿】

- 現在、じゃがいも、ねぎの作付けは畑中心だが、連作による土壤病害虫の発生により、生育が安定しない。また、農地が分散しており、作業が非効率である。地域の水稻生産者は高齢者が多く、近い将来、離農する可能性が高い。
- こうした事から、排水性が高い水田を中心にじゃがいも、ねぎの作付けを拡大することで土壤病害虫等の連作障害を軽減させ、安定生産につなげたい。また、離農する農家の農地を農地中間管理機構等から斡旋を受け、集積、団地化を図る。併せて畦畔を除去し、1枚のほ場を大区画化することで機械の利用効率を高めたい。現在、じゃがいもは、ほぼ全量加工・業務用としてカルビーに出荷しており、継続して取引を行う。ねぎについては、現在、一部を地域内外の飲食店などに出荷しているが、販路拡大を図る。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成30(2018)年度:0.9ha → 目標(令和3(2021)年度):10ha

2 主な取組内容(令和元(2019)～3(2021)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・構成員の経営者能力向上に向けた各種セミナー等への参加 ・額縁明渠の設置等の排水対策 ・農地中間管理機構の活用による農地集積及び畦畔除去によるほ場1枚の面積拡大
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化一貫体系の整備 ・構成員間の機械や施設の貸借による過剰投資抑制 ・有能な常時雇用の定着に向けた周年作業できる経営(じゃがいも・ねぎの組合せ、ねぎの周年栽培等)
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・契約取引の専門家等から契約取引のノウハウを獲得 ・じゃがいもについては、現在の取引先からの需要に応じた品質と数量の出荷により信頼関係を構築 ・ねぎについては、生産量の拡大に併せ、取引量の拡大や各種商談会への参加による新たな取引先の確保を検討



生産拡大を目指すじゃがいも



出荷を待つじゃがいも



周年安定生産を目指すねぎ